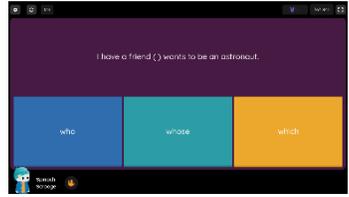




↑ 教員画面 (クイズ出題時)



↑ 生徒画面 (クイズ回答時)

活用場面

一斉学習

教師による教材の提示

個別学習

個に応じた学習

家庭学習

活用した機器等

iPad  
Chromebook  
プロジェクター

活用したアプリ等

Quizizz  
Google Classroom

学習のねらい

クイズ形式で文法事項を復習し、関係詞の定着を図る。

学習の流れ

導入 前時までに習った関係詞の復習をクイズ形式で行う。



興味や関心を高める

展開 好きなものについてペアで協力しながら英語で紹介する文を書く。I like ○○ which ~. や I will tell you the reason why I like ○○. などの定型文をもとに、ライティング活動を行う。



協働して課題解決する

まとめ よく書けている文をクラス全体で共有し、関係詞の使い方を再確認する。  
自身の状況にあわせて、導入でのクイズに再度取り組み復習する。



振り返って次へつなげる

ここでICTを活用!

Quizizzを使って本時まで学習した関係詞について、クイズ形式で復習する。

- ① 教員はプロジェクターを用いてタブレット端末のQuizizzの画面を投影する。
- ② 生徒はChromebookでクイズコードを入力し、クイズに参加する。
- ③ 全員が参加したことを確認し、教員はクイズをスタートする。
- ④ 生徒は4択問題や記述問題に回答する。正解や正答率、順位などが表示されるので、教員は適宜解説等をする。
- ⑤ クイズがすべて終了すると、クラス全体の正答率等が表示される。
- ⑥ 家でさらに復習できるように、Google Classroomに宿題として同じクイズを配信する。

活用のメリット、実践の工夫・振り返り等

【メリット】

- ・クイズ形式で復習に取り組めるようにすることで、生徒が楽しみながら文法項目の定着を図ることができる。
- ・Google Classroomと連動して生徒の解答状況を記録したり、宿題として配信したりすることができる。
- ・GoogleスプレッドシートやGoogleフォームからクイズをインポートできる。
- ・クイズ数を調整することで、帯活動として使用しやすい。

【課題】

- ・Chromebookを持ってこなかったり、充電が切れてしまったりすると参加しづらい。  
その場合は隣の人とペアを組んでクイズに参加することで対応するとよい。

【振り返り】

1人1台端末を使用することで、クラスの全員が主体的に活動に参加していた。生徒どうしの「これってwhichやっけ?」「いやwhoseやろ!」「うわ間違った、これwhatやん!」という反応から、活動の中で気付きを得ている様子が見られた。また、自身の成長や不十分な点が瞬時に把握できるため、モチベーションが向上し、どのような文でどの関係詞を使えばよいか理解が深まり、自分の好きなものについて関係詞を用いて詳しく書くというライティング活動につながった。